論 文

基本プランに基づく高専におけるホームルーム活動の実践

Homeroom Activities in a College of Technology Based on the Master Plan

渕 田 邦 彦※1　村 田 秀 明※1　湯 治 準一郎※1
Kunihiiko FUCHIDA　Hideaki MURATA　Junichiro YUJI

Homeroom（HR）activities have an important role in engineering education at technical colleges. Yatsushiro National College of Technology has made a master plan for them and has been putting the plan into practical use since 2002. This plan is comprehensive and has two main categories, social education and career guidance, both being composed of three sub-categories（e.g., self-understanding and making future plans). Based on the master plan, each HR teacher makes his own plan for HR activities for his classroom at the beginning of the academic year. We have reached a consensus to share our practice and to improve HR activities for years to come. We also recognize that to carry out HR activities based on a master plan that reflects the school's educational goals is essential in order to train students who are well-prepared, both as engineers and as humans.

Keywords：Education for Engineer, College of Technology, Career Guidance, Homeroom Activities, Master Plan, Social Education
キーワード：技術者教育，工業高等専門学校，進路指導，ホームルーム活動，基本プラン，社会性

1．まえがき

八代高専では，平成13年度に「HR（特別活動）の現状点検と基本プラン作成」研究協議会を立ち上げ，HR指導について協議するとともにその基本プラン作成に取り組んだ[1]．この背景には，高専の使命の１つと考えられる社会的評価に応えうる技術者の育成にとって，技術者としての能力だけでなく，目的意識，社会性，言動，信頼感などの基本的な素養すなわち人間基礎力を身に付けることが重要な課題として認識されたことにある．例えば，必要とされる人間基礎力が十分に身に付かないまま高学年に達して進路決定に安定さを欠くなどの事例や，高学年になって学習への取り組み意欲をなくす場合もあることが問題として意識され，低学年におけるHR 活動（特別活動の一部）を重要と考えるに至ったことが起点となった．

これまでHR活動について論じたいくつかの報告はなされているものの[2)-4)]，その取り組みが重要視される機会は少なく，個々の教員の裁量の範囲で取り組まれているのが現状であり，高学年における技術者教育を完結するには，特に低学年における人間基礎力の涵養が欠かせないものとして着目されるべきと考えられる．そこで本論文では，先に述べたような課題に対する取り組みの具体化として作成した「HR活動の基本プラン」の概要と，これに基づく実践例の一部を示すとともに，技術者教育におけるHR活動の役割と重要性について論じるものである．

2．基本プラン作成とその概要

前述の研究協議会では，HR活動の基本プラン策定にあたり，特に次の７点を指針とした．

(1) 基本プランは本校の『理念』と『教育目標』を念頭に置いて策定し，「エンジニア総合学習」を『教育目標』達成の一方途と位置づけ，入学時から卒業時まで系統的・連続的に展開する．
(2) 年間25時間程度の実施時数の内，20時間を本プランに沿った活動に充てる．
(3)『教育目標』に掲げる技術者となるために，どの学年で何をなすべきかを展望し，教員・学生が有効活用できるものとする．
(4) 基本プランの大綱は共通とするものの，具体的な実施内容は各学科の特色を十分に生かす．
(5) プランは固定化せず，実践を重ねる中で，より良いものへと改善を図る．実施にあたっては教官の自由な発想を生かし，それを「基本プラン」にフィードバックするシステムを構築する．
(6)「単位化」の当否について検討する．
(7)「エンジニア総合学習」の充実に関係して，本校の教育システム等に改善の必要があると判断される事項を提言する．

なお「HR活動」の一部をまとめて「エンジニア総合学習」という名称で単位化している．

平成19年１月31日受付
※1 八代工業高等専門学校

以上の指針に基づいて作成したHR活動の基本プランでは，「社会性・人間性を育てる」と「進路を考える」を２つの大きな柱とし，大目標としている．これらの大目標にはそれぞれ３つの柱（サブテーマ）を設定し，中目標とする．「社会性・人間性を育てる」については，(1)「自己を知り，自立心を育て，決断力・意志力を磨く（自己理解)」，(2)「集団へ適応する力を育て，協調性・積極性・実行力・指導力・忍耐

表１　「社会性・人間性を育てる」学年毎の指導目標

学年	自己理解（A-1）	集団への適応（A-2）	自然・人間・社会の理解（A-3）
１年	自己を見つめる	高専生活への適応を図る	自然・人間・社会に触れる
２年	自己を客観化し，自立心を育てる	高専において担うべき役割を自覚する（1）	自然・人間・社会について考える
３年	社会的存在としての自覚を図る	高専において担うべき役割を自覚する（2）	社会との関わりを自覚する
４年	社会的存在としての自立を目指す(1)	リーダーの役割を理解し，指導力を培う（1）	社会において担うべき役割を自覚する
５年	社会的存在としての自立を目指す(2)	リーダーの役割を理解し，指導力を培う（2）	社会に貢献する技術者としての意識を持つ

表２　「進路を考える」学年毎の指導目標

学年	将来設計と進路の実現（B-1）	学習習慣の確立（B-2）	職業観・勤労観の涵養（B-3）
１年	進路への準備（1）	望ましい学習の仕方を考え，学習を習慣化する	働くことの意味とすばらしさについて考える
２年	進路への準備（2）	有効な学習の仕方を考え，自身の学習を改善する	技術者として働くことと人生や社会との関わりを考える（1）
３年	進路への準備（3）	進路と学習の関わりを展望し，主体的な学習を確立する	技術者として働くことと人生や社会との関わりを考える（2）
４年	進路の決定	将来関わるべきテーマを求め，学問的な備えを始める	科学技術の可能性と責任について考える
５年	進路の実現	将来関わるべきテーマを求め，学問的な深まりを求める	技術者倫理を考える

表３　テーマ例

学年	「社会性・人間性を育てる」	「進路を考える」
	１．自己を知り，自立心を育て，決断力・意志力を磨く	**１．将来設計をする**
１年	自己紹介，学習習慣，読書感想文，自身の性格・グループ討論，クラブ活動参加，他者の個性	高専で学ぶこと，入学の動機と現在の評価，進路情報，上級生の体験談，進路設計の考え方
２年	２年生の抱負，健康について，自分史作成，自己点検，興味・関心の自覚，自分の社会関係	やってみたい仕事，職業適性検査の解釈と活用，将来の職業，企業が求める人材，女子学生の進路
３年	５～10年後の自分を考える，人生について，意志力を養う，卒業生講話，自己点検，３年間総括	SPI模擬試験，卒業生の進路，人生と学歴，産業界の動向，先輩に聞く，進路設計の考え方
	２．集団へ適応する力を育て，協調性・積極性・実行力・指導力・忍耐力を磨く	**２．主体的な学習を確立する**
１年	規則やマナーの学習，クラス活動の意義，集団における義務とマナー，学生会活動の意義	高専での学習：授業に臨む姿勢・態度，学習習慣の確立．望ましい勉強法，試験結果の分析評価
２年	規則マナー教育，グループ討論，集団における自由と責任の理解，学生会活動への参加・協力	２年生での目標と学習計画，効率的な勉強法，勉強とクラブの両立，専門科目で学ぶこと
３年	高専における自分の役割，規則やマナー教育の徹底，高専祭クラス企画，自分の役割の再認識，	３年生で学ぶこと，専門科目・専門分野の展望，学習法の改善，能力と努力，進路と学習
	３．自然・人間・社会について理解を深め，そのあり方について考える力を育てる	**３．望ましい職業観・勤労観を持つ**
１年	図書館の利用，同和教育，ボランティア活動の意義，著名人の体験談，同年代の若者の考え	卒業生に聞く，働くことの意味を考える，職業分類，教員に聞く，定期試験と進級判定について
２年	将来の希望，男女の性差，情報化社会の理解，，環境問題，現代社会の課題，異文化の理解	技術者への道，仕事＝人生か，技術者として働くこと，働くことと人生や社会との関わり
３年	平和教育，異文化の理解，ボランティア活動の意義と実践，留学生との交流，最近の社会情勢	技術者として働くことのすばらしさと悩み，企業人に学ぶ，科学技術と人類の幸福，職業観

力を磨く（集団への適応）」，(3)「自然・人間・社会について理解を深め，そのあり方について考える力を育てる（自然・人間・社会の理解）」であり，「進路を考える」については，(1)「将来設計をする（将来設計と進路の実現）」，(2)「主体的な学習を確立する（学習習慣の確立）」，(3)「望ましい職業観・勤労観を持つ（職業観・勤労観の涵養）」である．各中目標（サブテーマ）において学年ごとの小目標を，表１及び表２のように定めている．なお低学年時には「社会性・人間性を育てる」に比重を置き，学年進行につれて「進路を考える」へ比重を移す内容の配分としている．このように１年次から５年次まで体系的にHR活動を計画・実行することで，技術者教育の補足を図っている．

上記の小目標はHRにおける指導目標であり，基本プランの具体化として，指導目標ごとに４～10個の具体的な指導テーマを例示し，実施にあたっての連携先と「HR活動」での配当時間を示した表を作成した．表３は，各学年におけるテーマ例を表したもので，それぞれ「社会性・人間性を育てる」及び「進路を考える」について，項目のみを列挙している．

３．基本プランに基づくHR活動の実践

平成14年度より本校では，各クラス担任が前節の基本プランに基づいて年度当初にHR活動の年間計画を作成し，それに沿ったHR活動を実践することに取り組んでいる．

図１は，このような活動の一例として，平成17年度１年機械電気工学科におけるHR活動の実施結果を示したものであり，図中の区分欄のＡ及びＢの記号は，それぞれ基本プランの大目標である「社会性・人間性を育てる」と「進路を考える」を指しており，１，２，３の数字は表１及び表２のそれぞれの中目標に対応している．１年次では本校の学習教育目標に沿って，学習や生活の習慣付けや進路についての目標設定への導入などが図られている．

平成17年度
ホームルーム　実施報告

学　年	：　１年
学　科	：　機械電気工学科

回	時期	区分	テーマ	内　　容	備考
1	4月7日	A-2	学生の自己紹介及び高専についての説明	学生同士の自己紹介を実施。学校の説明を行う。	
2	4月12日	A-2	１年間の目標と抱負	高専生活を始めるにあたって目標を設定し抱負をまとめる。	総合①
3	4月19日	A-2	役員選出と自己紹介	学級全体及びHRの雰囲気作りと学級運営の準備	
4	4月26日		球技大会の話し合い	校内で実施される球技大会に向けて選手を選出する。	
5	5月10日	B-1	10年後の私・20年後の私	将来を見据えた生活を送れるよう意識付けを図る。	総合②
6	5月17日	A-2	基本生活のリズム作り	高専生として理想的な生活習慣を考え、日々のリズムを整える。	総合③
7	5月31日	B-2	前期中間試験に向けて①	学生生活実態調査アンケートを採った	
8	6月7日	B-2	前期中間試験に向けて②	試験に向けての取り組み方，学習方法を検討する。	
9	7月5日		個人面談・読書①	１人１人の生活を振り返り、問題点を探る。試験準備における不安事項を解決する。	
10	7月19日		個人面談・読書②		
11	7月22日	B-2	夏休みの計画	夏休み中の生活・学習計画を立て、有意義な過ごし方を検討する。	総合④
12	9月13日	A-2	高専祭準備・委員選出	高専祭の紹介と実施に関わる委員選出。	
13	9月20日	B-2	前期期末試験に向けて	中間試験での反省点を踏まえ，期末試験までの目標設定をする。	
14	10月4日	A-1	前期を振り返って・後期開始に向けて	前期の生活を振り返り、反省項目を議論し、今後の計画を立てる。	総合⑤
15	10月11日	A-2	後期役員選出・高専祭準備	学級全体及びHRの雰囲気作りと学級運営の準備	
16	10月25日	B-2	前期末試験の反省と今後に向けて	前期末試験結果を受けて、取り組み・準備過程の反省を行う。	
17	11月15日	B-2	学習等記録簿の作成	作成済みの学習自己点検を見直し、学習等記録簿を作成する。	
18	11月22日	B-1	就職・進学について考えよう	将来の目標を考え始めるきっかけを作る。学生個人の適性を探る。	総合⑥
19	11月29日		個人面談・読書①	目標を持った高専生活を送るために、進路についての意識付けを図り、目標を踏まえて今後の生活を検討する。	
20	12月6日		個人面談・読書②		
21	12月20日	A-1	高専に入学してからの私	高専入学後の学校内外での振舞いを反省し、改善点を探る。	総合⑦
22	1月10日	B-2	後期中間試験を振り返って	試験までの取り組みを反省し、学年末試験への取り組みに繋げる。	
23	1月17日	B-1	「先生や先輩方に聞いて見よう」準備	進路（就職・進学）について考え、次回の授業で伺いたい内容をまとめる。	総合⑧
24	1月31日	B-1	「先生や先輩方に聞いて見よう」	学科長と先輩（5年生）の話を聞き、就職活動・進路準備の実際を学ぶ。	総合⑨
25	2月7日	B-2	学習等記録簿の作成	作成済みの学習自己点検を見直し、学習等記録簿を作成する。	
26	2月28日	A-1	１年間を振り返って	高専生活1年目を振り返り、反省を記述する。	総合⑩

ホームルームのうち１０回分を「エンジニア総合学習」に当てるものとする。
また、区分は次の通りとする。
(A)社会性・人間性を育てる
A-1 社会的存在としての自覚を図る
A-2 高専生において担うべき役割を自覚する(2)
A-3 社会との関わりを自覚する
(B)進路を考える
B-1 進路への準備３-学科と進路、その可能性の理解
B-2 進路と学習の関わりを展望し、主体的な学習を確立する
B-3 技術者として働くことと人生や社会との関わりを考える(2)

図１　ホームルーム活動実施報告例（平成17年度）

この他，実践事例を通して得られた特徴的な事項について以下に記述する．

１年次のクラスでは，１分間スピーチや個人プロフィール作成などを通じて入学後の高専教育とクラス作りへのスムーズな導入を図り，ある程度学校に慣れてきた頃から学習指導・生活指導に力を入れるなど細かな配慮のもと実践が試みられている．さらに高専祭等の学校行事への積極的な参加を通して個人の役割の自覚を持たせるとともに，専門分野に関連したビデオや５年生の講話などによりエンジニアとしての自覚を育てる構成でHR活動が実践されている．

２年次のクラスでは，学生時代にやっておくべきことを自覚させるための記事や講話，新担任の学習指導・生活指導に活用される個人面談カードの作成，試験後の自己点検表の作成，自律した技術者となるべく読み物や講話によるマナー教育，専門学科教員による講話や就職関連記事を用いた進路への意識付けなどが実践されている．

図２は，平成17年度のホームルーム活動の実践例を「エンジニア総合学習」活動記録[5]より抜粋して示したものである．１年生から３年生までの各クラスにおいて基本プランに沿って種々の活動が実施されている．実施形態は，講話，ビデオ鑑賞，プリント学習，グループ討議，発表形式など様々であるが，実施後に作成された感想文によると，ホームルーム活動を通してそれぞれ学習できたことを記述しており，その活動成果が得られていると考えられる．

以上のような，基本プランに沿って実践されたHR活動は５年目に入っており，学校全体で共通した指導方針に基づいて，年間を通じて計画的に実践しており，年度末にクラスごとに取りまとめられた実施結果の報告からは，学校全体で指導方針を共有しての一貫した取り組みがなされたことが読み取れる．また担任教員からは，それまで個人的にHR活動の準備・実施で苦労していたのに対して，事例を参考にできるなど取り組みやすくなったことでHR活動の効果も上がったという意見があり，定性的ながら基本プランに基づくHR活動は大きく評価できるものと考えられる．この

平成17年度ホームルーム　実施事例（「エンジニア総合学習活動記録」より抜粋）

	クラス	区分	テーマ	内　　容	備考
1	1M	B-1	就職・進学について考えよう	将来の目標を考え始めるきっかけを作る。学生個人の適性を探る。	カード記入
2	1M	A-2	基本生活のリズム作り	高専生として理想的な生活習慣を考え、日々のリズムを整える。	プリントに各自記入・コメント
3	1M	A-1	高専に入学してからの私	高専入学後の学校内外での振舞いを反省し、改善点を探る。	プリント配布，グループ討議と発表，教員のコメント
4	1M	B-2	学習等記録簿の作成	作成済みの学習自己点検を見直し、学習等記録簿を作成する。	学習等記録簿の記入，教員のコメント
5	1C	B-3	ビデオ鑑賞（プロジェクトX）	専門分野に関連する「瀬戸大橋」についてのビデオ鑑賞により職業観の育成を図る。	感想文作成
6	2E	A-1	１年間の目標	１年間の計画を30個の目標として書かせて具体化を図り、最終的にチェックを行う。	目標の記述。学年末に点検させる。
7	1C 2C 3C	A-2 B-1 B-2	学科合同ＨＲ	学科総合教育プログラム等の説明により本校及び学科について理解させ、計画的学習の習慣付けを図る。	プリント配布。 ノート記入，提出後確認。
8	2C	B-2	定期試験の自己点検	定期試験の学習記録・自己点検シートの作成。	シートの記入
9	2B	A-3	八代市立博物館特別展覧会絵画鑑賞	絵画鑑賞を通して、本物に接することの大切さや文化・歴史を感じ取る。	博物館スタッフによる講演・解説，アンケート実施
10	3M	B-2	自己点検調査	定期試験結果をｗｅｂで確認しパソコンで入力するシステムを構築し、自己点検調査として入力させた。	パソコンによるデータ確認と入力
11	3E	B-3	新聞記事の発表	関心を持った事項について新聞記事より拾い出し、クラスで発表させる。	各自新聞記事を準備，事前準備と発表
12	3E	A-3	留学生の母国紹介	クラスに在籍する外国人留学生の母国ラオスの紹介により、国際性に触れる機会とする。	講話。感想文
13	3E	B-1	個人相談カードの作成	将来の進路や現在の生活状況を整理し、現在の自分を見直す機会とする。	個人相談カード作成，面談資料に活用
14	3C	A-3	ビデオ鑑賞（バリアフリー）	目と耳が不自由なT大学助教授の生き方を知ることで、人が社会に関わることの意味を考えさせる。	ビデオ鑑賞と感想文作成
15	3C	B-1	学科合同ＨＲ	進路実現に向けて、教員や先輩の話を聞き、今後に役立たせる。実施後、感想文作成。	講話，プリント配布 感想文作成
16	3B	A-1	菊池寛の小説「入札」を読む	集団の中での自分自身の良心について考えさせる。	プリント配布 感想文
17	3B	A-3	環境の維持について考える	ロハスという最近の言葉から、環境を維持しながら人間活動を行うことの重要性を考える	プリント配布 感想文

図２　平成17年度のホームルーム活動の実践事例

ような基本プランに基づいた計画に沿って実践した事例を蓄積し，これを次年度以降のクラス担任へ引継いでいくことは，高専の教育目標達成に向けた効果的な取り組みの一つといえよう．

一方，基本プラン作成時の協議の結果，HR活動と関連する取り組みとして，「担任会」の組織化，「エンジニア総合学習」としての単位化，始業前のコミュニケーションタイム設定の３点が提言された．第１点の「担任会」は，３年以下の第一部会と４・５年の第二部会で構成され，各部会での連携強化と学科間の連携を図っている．担任会組織化により，HR活動の年間指導計画の作成および運営における担任間または担任と学科間等での協力・援助体制が整備された．第２点の「エンジニア総合学習」としての単位化は，１年から３年次までのHR活動の内，各学年におけるHR活動の10時間相当分を合わせた30時間を１単位とする点である．科目区分としては特別選択科目の専門基礎セミナーの単位としており，HR活動を正規のカリキュラムと同等に重要なものとして位置付けている．第３点のコミュニケーションタイムは，毎朝始業前の10分間を各担任教官がクラスの学生と連携をとる時間と定め，平成15年度より，全学年のクラスにおいて実施している．高等学校で行われているショートホームルームに相当するものとも捉えられるが，出欠を取ることなどを申し合わせている以外は担任の裁量にまかせ，担任と学生あるいは学生同士のコミュニケーションを図り，HR活動の効果を高めることを意図している．

図３は平成15～17年までの３年間における１クラスで実施されたホームルーム活動の内，「エンジニア総合学習」の活動リストをまとめたものであり，３年次において専門基礎セミナーとして単位認定する資料の一例である．各担任は「年間活動報告リスト」，「実践事例」（実施ごとに活動内容等を記録したもので使

専門基礎セミナー『エンジニア総合学習』 活動リスト　H17_C-1

平成17年度　機械電気工学科　3年担任：■■ ■■

[学年]　1年次　[年度] 平成15年度　[担任] ■■ ■■

回数	実施日	テーマ	所要時間(h)
1	5月13日	校歌の練習およびプロフィール作成	1
2	5月20日	阿蘇研修感想文	1
3	6月3日	M科主任の話	1
4	9月2日	高専祭オブジェ決め	1
5	10月21日	高専祭準備	1
6	11月11日	ビデオ鑑賞	1
7	11月18日	先輩の話	1
8	12月16日	後期中間試験の反省	1
9	1月13日他	１分間スピーチ	4
10			
		時間数小計	12

[学年]　2年次　[年度] 平成16年度　[担任] ■■ ■■

回数	実施日	テーマ	所要時間(h)
1	4月20日	昨年度の反省と今年度の目標	1
2	4月27日	高専の規則について	1
3	5月25日	職業観を育てるためのビデオ鑑賞	1
4	7月6日	自己点検調査と高専祭担当決め	1
5	9月14日	SPIによる自己分析	1
6	10月26日	前期期末試験の自己点検調査	1
7	11月30日	就職についてのガイダンス	1
8	1月11日	後期中間試験の自己点検調査	1
9	1月25日	職業観を育てるためのビデオ鑑賞	1
10	2月1日	職種研究	1
11	3月1日	後期期末試験の自己点検調査	1
		時間数小計	11

[学年]　3年次　[年度] 平成17年度　[担任] ■■ ■■

回数	実施日	テーマ	所要時間(h)
1	4月12日	学級運営方針の説明	1
2	5月10日	今年度の目標について	1
3	6月28日	自己点検調査1	1
4	7月5日	学外研修に向けて	1
5	7月20日	学外研修	6
6	10月4日	高専祭に向けて(1)と外部資格について	1
7	10月25日	自己点検調査2	1
8	12月20日	進学についての講演	1
9	1月10日	自己点検調査3	1
10	3月8日	自己点検調査4	1
		時間数小計	15
		時間数合計	38時間

図３　「エンジニア総合学習」活動リストの例

用した資料も添付）を提出し，これらの資料を教務委員会が確認し，単位認定を行うシステムとなっている．

４．技術者教育におけるHR活動の意義

八代高専では，教育目標とこれを達成するための取り組みとして，学科５年と専攻科２年を通じての「教育の総合プログラム」を作成し，一貫した方針による技術者教育実践への取り組みを始めている[6]．本論文で述べているHRの基本プランはこの「教育の総合プログラム」において「クラス指導」として位置付けられており，技術者教育の一翼を担う大きな役割を持っている．

すなわち，複雑化，国際化など社会の大きな変動の時期において，必要とされる技術者となるためには，専門分野を中心とする技術力に加えて，これを支えるべき人間基礎力が不可欠といえることから，この人間基礎力を培うために，HRにおける活動は重要な役割を担っている．逆に言えば，この人間基礎力なくして，社会に通用する技術者とは成りえないともいえる．

このような意味で，HRにおける活動は教科のカリキュラムと同様に，十分な位置付けと内容の充実を図ることが効果的であり，特に低学年における指導の役割が重要視されるべきと考えられる．前述のように，本校では平成15年度よりHR活動の一部を単位化しているが，担任個人による取り組みだけでは困難であり，上記の担任会により，組織的な担任間および教務委員会との連携を図ることとしている．また朝のコミュニケーションタイムは，従来の指導形態も考慮して，高等学校におけるショートホームルームの一部を緩やかな形態で導入したものである．

以上のような本校におけるこれらの取り組みの端緒は，HR基本プラン作成とその実践から派生しており，そのような意味で，HR基本プランは本校の教育目標実現に果たすべき大きな役割を持っており，図１～図３に示したように，これに基づく実践教育が，学校の理念と教育目標達成に効果を上げていると考えられる．

５．あとがき

本校では，技術者育成に不可欠な人間基礎力を身につけるべく，効果的なHR活動に取り組むために，基本プランを作成し，その実践への活用を行っている．本論文はこのような取り組みの概要を述べるとともに，その意義について論じたものである．基本プラン作成の過程では，HR活動が高専における技術者育成の根幹に関わる様々な問題に関連していることが明らかとなり，カリキュラムに組み込まれた週１時間の「HR活動」が技術者育成のための教育・指導の貴重な機会であり，学校全体で方針を共有し組織的な指導を行うことの意義が大きいことを改めて認識した．また作成した基本プランは高専の教育目標に沿った骨太の指針になっており，学年間の連携，体系付けられた人材育成のためのHR基本プラン（高専人づくりプラン）として，技術者教育を支える大きな柱の役割を担うものといえる．

参　考　文　献

１）八代高専研究協議会編：HR（特別活動）の現状点検と基本プラン作成，同協議会報告書，pp.1－77, 2002

２）北野健一，金田忠裕，東田　卓，高橋参吉，多田眞人：高専におけるリーダー育成のためのホームルーム活動，高専教育，19, pp.346－353, 1996

３）葛西亨治：高専における低学年学級経営の試み，高専教育，22, pp.445－453, 1999

４）小澤健志：高専における特別活動（ホームルーム）の時間の活用について－学生に目的意識を抱かせるために－，高専教育，23, pp.309－314, 2000

５）八代高専教務委員会編：エンジニア総合学習活動記録，八代高専学生課保管資料，2006

６）八代高専自己評価検討委員会編：自己点検報告書－第５版－，pp.231－234・別表，2002

著　者　紹　介

渕田　邦彦

1978年　熊本大学工学部土木工学科卒業
　　八代工業高等専門学校助手

現　在　八代工業高等専門学校土木建築工学科　教授　博士（工学）

専　門　地震工学

〒866-8501　熊本県八代市平山新町2627